活動報告と帰国後の取り組み

石井　洋
（18－1，ブータン，小学校教諭，留萌市立緑丘小学校）

北海道からまいりました石井洋と申します。どうぞよろしくお願いします。

私は協力隊に現職教員として行きまして、2 回目の協力隊の募集でようやく派遣が決まりました。というのも、北海道では一昨年前の 17 年度まで 2 名の方しか現職で行けなかったというわけがありまして、枠が解禁されてから一番最初に 20 人ぐらい北海道の教職員がワーッと行ける時に私も行きまして、そういう第一号だったということで、ここで良い話ができればなと思ってまいりました。

この写真なんですけれども、私がブータンで住んでいた家です。私はこの 2 階に住んでいまして、見るとボロボロなんですけれども、ブータンの中でもいい家で、いろいろ広い部屋もいっぱいあって、結構恵まれてるとことに住まわせてもらったなと思ってます。

私の話ですけれども、活動の報告と、日本に戻ってきてどんな事をしたかということを中心に話せればなあと思います。では、よろしくお願いします。

まず、ブータンの概要について簡単に説明させていただきます。人口からズラーと書いたのですが、人口 65．8 万人って書いたんですけれども、これはほとんど嘘みたいな話で、いろんな資料によって 200 万人って書いてあったり、このように 65 万って書いてあったり、ブータンってちゃんと調査が行われておらず、山の中にいたりだとか、人口のとらえどころがなくて、この数字も参考程度にという感じです。

面積なんですが、面積もだいたい中国とインドに挟まれた小さい国で、九州と同じぐらいなんですが、中国に少し領土を取られたりだとか、この面積も確定ではなく大体このぐらいだろうというものです。

言語はゾンカと英語、「等」って書いてありますが、「等」というのは、ブータンはゾンカが国で話す言葉なんですが、それ以外にもシャショップ語だとか、ケンパだとかいっぱいあるので「等」というふうに書いてます。英語がみんな、若い子が特にペラペラで、英語でも通じます。

宗教は、日本は仏教なんですが、向こうはチベット宗教で、もっと日本よりも信仰深くて、朝はお祈りから始まって、帰りもお祈りをして帰る、みんな敬虔な仏教徒です。

最後に「GDP より GNH」と書いたんですが、先代の国王がこの GNH というのを大事にしてて、日本は GDP、「経済経済」なんですが、向こうは「経済なんて」という感じで、どちらかというと幸せ感、国民が幸せであることがこの国ではすごく重視されている。そんな国で私は活動してまいりました。

私が配属された小学校というのは、チマラカ小中学校というところで、首都から車で 3

時間ぐらいのところにある、小さい町です。ただ、小さい町なんですが、周りにあまり学校がなくて田舎の大規模校でした。児童がだいたい 700 人で、クラスが幼稚園の年長から中学 2 年生までです。教員は 30 人ぐらいいまして、教員の中にはブータン人だけでなくてインド人やネパール人もいました。この学校ですね。この学校も、ここが一つの校舎なんですけれども、こんな建物がいっぱいありまして、一つの建物にだいたい 4 つの教室があるような造りの学校です。

どんな活動をしていたかというと、小学校教員として行ったんですが、体育の授業をしていました。体育教師として配属されました。それで、週に 24 コマぐらいの授業をやりました。「ウォーミングアップ、準備体操、着替え、クーリングダウン」と書いたんですが、どういうことかというと、体育が正規教科としてないところに行ったもんですから、みんなはサッカーとかバスケットとか大好きなんですけれども、準備体操の意味を知らなかったり、民族衣装なので、着替えとかの大切さを伝えるというところも自分たちの活動です。

これ、後ろにバックで走っている、こういう何気ないものも、むこうではサッカーとかバスケットとかで、授業ではこんなのやったことないということで、こういうのでもすごく子供たち楽しんでやってくれました。

日本の組み体操のピラミッドなんかも、子供たちにさせて、崩れそうなんですけれども、こんなのもあるんだと、子供たちがすごく楽しんでやってくれたという写真です。

スポーツデイという、運動会に当たるもので、ポンポンダンスを教えました。向こうでは全然ポンポンダンスなんかやったことなかったんですが、ポンポン持たせて、運動会とかで、日本でもやっとことを紹介することができました。曲なんですが、オレンジレンジの曲で、ノリノリで踊っている写真です。

自分の配属されたところは山の上だったので、年間でも 3 分の 1 ぐらい雨や霧がかかる町だったので、雨の日は教室でいろいろ急きょ体育以外のことをしないといけない。これから行かれる方はそうなんですが、途上国ではいきなり予定が変更するということがすごく多くて、体育がいきなり駄目になったら、教室で日本語教えたり、日本の折り紙教えたり、簡単な算数教えたり、急に予定外のことをパッとしないといけないことがたくさんあったので、そういうのをこれから行く人は用意していったらいいと思います。向こうの人は、日本のことを知りたがっているので、そのようなものをいろいろ持っていけばよいと思います。

この写真はバレーをやっているところです。バレーもやるんですが、なにせモノがない。ボールが不足していたりして、この学校にもボールが 3 つぐらいしかなかったです。派遣される予定の方は特にそうなんですが、なにか物を持っていきたいと思うかもしれないんですが、物を向こうに持っていってもなくなってしまいます。盗られてしまうんです。そのため、向こうにあるものを使うことをお勧めします。特に質問とかで、「なに持ってたらいいですか？」って質問したい方いると思うんですが、向こうにあるもので作るということも大事で、派遣中にもワークショップとかやったんですが、その中でも、ボールを作っ

たりだとか、遊び道具を作る、体育用具を作る、「作る」ということを大事にしないと、いくらボールとかを与えても向こうでは続いていかないのかなと思います。

体育の授業以外の活動でこんなことをやったというのを紹介します。これは実技ワークショップの様子の最後の集合写真です。真ん中にいる杉原大先生とみんなで集合写真を撮りました。向こうのブータン人を相手に体育授業に関するワークショップをしました。ワークショップといっても実技研修のようなワークショップでした。というのも、体育の先生はブータンにはあまりいないんですが、体育に興味があって来ているんですが何をやったらいいかわからない、教科書もないわけですから、こんなことやったら楽しいんだよ、こんなゲームがあるんだよというのを紹介するという、そのようなワークショップをやりました。

これは、カリキュラムワークショップといって、教員大学の先生方に誘われて、みんなでブータンの体育授業のシラバスづくりを行ったときの集合写真です。写真はかっこよく見えるのですがほとんど私は何もできませんでした。しかも、このとき私はおなかを壊しまして、全然話し合いについていけなかったんですが、向こうの人達は、日本人が来てくれるだけで、日本人と交流したり、日本人が関わってくれるということが目的だったようです。私の隣にルンテンさんという教授がいるんですが、向こうの教授の方たちと交流するのがメインだったのかなと思います。協力隊に求められていることはいろいろあると思うんですが、やっぱり第一番は交流することなのかなと感じました。ここではシラバスづくりが主だったんですけど、いろいろ交流できたってことが財産だったかなと思います。

交流でいうと、この写真は、日本祭なんですが、私の町内に日本人は私しかいなかったんですが、私しか日本人がいない所に日本人の方にたくさん来てもらって、子供たちを集めて日本祭というのをやりました。日本の文化を紹介して、クイズをやったり、よさこいをやったり、相撲をやったり、もちつきをやったり、日本のことを紹介することをやることで、私の後任がみんなにすごく良くしてもらって、それはこういうふうに町に日本人がたくさん来てくれたということを町の人が覚えていたり、一回の祭りだったんですが、地元の人にすごく感謝されていて喜ばれたというのが、今考えるとやってよかった、あとに続いているんだなと思っています。

これから行かれる方も何か日本の文化を紹介できたら、後ろに座っておられる西浦さんもそうなんですが書道できたり、日本の相撲のデモンストレーションできたり、何か日本の文化を紹介できる引き出しを持っていけば役に立つのではないかと思います。

これは、広域研修という活動の最後にやった写真です。広域研修とは何かというと、JICAのほうでいろんな国の方、カウンターパートを呼んで、そこで研修するというものです。日本でやっている研修とは全然違って、いろんな国の人を呼んで一緒にいろんな課題について考えようというものです。それは最後のまとめにできて、これは学校でやってきたんですが、こうやって子供たちもすごく楽しそうに参加してくれて、いろいろ大変なこともいっぱいあったんですが、ブータン人にとってもほかの国の参加者にとってもすごく楽し

いい、意味のある研修になったかなと思います。

これからは、日本に戻ってきたからこんなことをしましたよということについて簡単に説明します。これは、帰国直前の飛行機に乗る前の写真です。

日本に戻ってきてやったことですが、まず、参観日にブータンクイズというのを１時間、保護者の人の前でやりました。ただ、ブータンのことを説明したり写真を見せたりというのでは面白くないのでクイズ形式にして色々と考えてもらいました。クイズもそうなんだけどそれで伝えたいことも伝えられるということでこんな質問をしました。「ブータンの学校ではテストの点数が悪いとどうなるでしょう？A 先生にたたかれる B 次の学年に進級できない C 罰金を払わなければならない」皆さんどうですか？A だと思う方？B だと思う方？C だと思う方？正解は B が正解で次の学年に進級できないんです。子供たちもよく間違えるんですが、どういうことかというと、この写真を見ていただいて、この写真だけでも結構子供に伝えられることってあるんです。というのも、次の学年に進級できないから、実は同じ学年なんだけれども実際によくみたら年齢が全然違う。この写真１枚で年齢違う子、ドルジが年齢が２年上だとか、いちばん右にいる子はネパールの子なんです。ブータンの子供だけでなくネパールの子どもが一緒に勉強してたり、日本では同じ子供しかいないけど、ネパールの子や年上の子が一緒の学年にいるんだよ。これでもいじめとかないんだよ。この写真１枚だけでもいろんなことを子供に伝えられると考えて、こんなクイズをやりました。

子供に伝えられることってたくさん本当は持っているんですが、話したいことってやっぱり違って、楽しかったことを話したいんですね。隊員生活で送った１年９か月が本当にそのときの楽しかった思い出を話したくてこの２週間でヒマラヤにトレッキングのこととか、中田選手とツーショット撮ったこととか、こういったことのほうが子供が楽しめる。こういった楽しい話から子供たちに伝えられることがあると思っています。本当にやらなきゃいけないことは、これは国際協力で日本が建てた学校です。６年生の社会でこのようなところがあるので、国際協力について話す機会があったら、このようなことを話そうと思っています。

国際理解教育について４年生の授業で、暮らしのことを勉強していたので、マーケットの様子だとかこの食事の様子だとか、ほかの先生ができないような話をしました。自分がやった国際理解教育なんですが、まずしさから幸せについて伝えたいと思いまして、２学期に、自分の経験からこういう話を考えてやりました。これはインドの労働者たちなんですけれども、１日１ドルぐらいの報酬しかないところで暮らしている方の写真を見せて、子供たちにこういうところの人たちの生活について考えさせたりしました。私も行く前は、途上国のほうは貧しいんだから募金したり大変なんだよという話しかできなかったんですが、行って帰ってきて日本以上に幸せに、友達を大事にしたり家族を大事にしたり、それが幸せだと感じている子がたくさんいるということを伝えられるようになりました。行く

前までは国際理解協力といえば募金とか貧しい国の人は大変だから何かしてあげようといった考えだったんですが、そうではなくて、ブータンに行ったことで貧しいけれどもすごく幸せな人々がいる。違った視点で国際理解教育を考えられるようになった。文化、その国の状況を子供たちに知らせて、お金がなくったって幸せな子たちがいる、そういうことを伝えられるようになったことがよかった。

最後に教育実習に来た仲間と撮った写真なんですけれども、人とのつながり、楽しかった思い出は仲間と一緒にピクニックに行ったりだとか、そういった思い出だと思っています。そういったことを伝えていければと思います。

以上で時間になりましたので発表を終わります。ありがとうございました。